

別記様式第15号-1(第29第4項関係)(特別交付型)

令和4年度 消費・安全対策交付金(食料安全保障確立対策推進交付金)都道府県等成果及び評価報告書(令和5年8月作成)
 (令和4年度消費・安全対策交付金 令和4年度補正予算分)

都道府県等名:愛媛県

目的	目標	目標値及び実績			事業実施主体ごとの達成度			交付金相当額 (円) (うち地域提案メニュー)	備考
		目標値	実績	達成度	事業実施主体	目標	達成度		
Ⅱ 伝染性疾病・病害 虫の発生 予防・まん延防止	家畜衛生の推進 (特別交付型)	豚熱・アフリカ豚熱のまん延防止 高病原性鳥インフルエンザのまん延防止	豚熱・アフリカ豚熱のまん延防止 高病原性鳥インフルエンザのまん延防止	達成	愛媛県	豚熱・アフリカ豚熱のまん延防止 高病原性鳥インフルエンザのまん延防止	達成	4,621,000	
総計・総合達成度				総合達成度 達成 総合評価 適正				4,621,000	

国による評価の概要

総合達成度は「達成」であり、総合評価「適正」は妥当と判断する。なお、事業は適切に実施されたと評価する。

目標	家畜衛生の推進		
事業実施期間	令和 4 年度	都道府県等名	愛媛県

【事業の実施方法】

国内における豚熱発生以降、野生イノシシや人流を介した感染地域の拡大や家畜養豚へのまん延が危惧されており、野生イノシシの豚熱感染については、四国地域でも感染確認地域が拡大しつつあることから、以下のとおり、当該検査に必要な機器を整備する必要がある。

また、高病原性鳥インフルエンザの発生が国内において継続的に認められることから、本県の防疫対策を強化するため、「ため池等水場周辺における消毒」を実施する必要がある。

- ① 令和 4 年度は本県以外の四国地域で野生イノシシの豚熱感染が確認され、中国四国地域でも感染確認地域が拡大しつつあることから、本県における「豚熱・アフリカ豚熱の浸潤状況把握や検査件数増大への対応」及び「豚・イノシシ間の汚染防止対策を講じた迅速かつ確実な遺伝子検査の実施」の体制づくりを押し進めるため、当該検査に必要な機器を整備する必要がある。
- ② また、令和 4 年度は高病原性鳥インフルエンザの発生が国内において継続的に認められ、隣県における高病原性鳥インフルエンザの発生があったことから、本県の防疫対策を強化するため、「ため池等水場周辺における消毒」を実施する必要がある。

このため、「家畜衛生の推進」の目標値を達成するために、以下の取組を行った。

- (2) 家畜の伝染病疾病の発生予防
緊急消毒の実施
- (6) 家畜衛生対策の推進に係る関連機器の整備
豚熱・アフリカ豚熱の遺伝子検査機器等の整備

〈目標値の考え方〉

豚熱及びアフリカ豚熱のまん延防止
現状 豚熱及びアフリカ豚熱の発生件数 0 件

高病原性鳥インフルエンザのまん延防止
現状 高病原性鳥インフルエンザの発生件数 0 件

目標値					
項目	現状	目標値	実績	達成度	評価
家畜の伝染性疾病のまん延防止	－	豚熱及びアフリカ豚熱のまん延防止 高病原性鳥インフルエンザのまん延防止	豚熱及びアフリカ豚熱のまん延防止 高病原性鳥インフルエンザのまん延防止	達成	適正

事業内容及び実績額				
事業内容	規格・規模等	所要額実績 (円)	左の交付金 相当額 (円)	交付率 (%)
(2) 家畜の伝染性疾病 の発生予防	野生動物や環境からの家畜の 伝染性疾病の感染予防（緊急 消毒の実施）	1,056,000	528,000	50
(6) 家畜衛生対策の推 進に係る関連機器 の整備	豚熱・アフリカ豚熱の遺伝子 検査機器等の整備（リアルタ イムPCR、卓上恒温槽、ア ルミブロック恒温槽一式）	8,189,390	4,093,000	49
計		9,245,390	4,621,000	
<地区推進事業>				

【事業の成果】

1 事業実施内容

(2) 家畜の伝染性疾病の発生予防

高病原性鳥インフルエンザの発生が過去最多となっている中で、野生動物や環境からの家畜の伝染性疾病の感染防止を図るため、野鳥が飛来するため池等の水場周辺を緊急消毒し、更なる養鶏場へのウイルス侵入リスクの低減に取り組むことで、本病のまん延防止ができた。

委託先：愛媛県ペストコントロール協会

実施期間：R5年2月14日～3月10日

実施場所：四国中央市2箇所、今治市5箇所、松山市1箇所、伊予市2箇所

(6) 家畜衛生対策の推進に係る関連機器の整備

C S F 検査対策及び家畜防疫の強化を図るため、本県の家畜疾病の検査及び診断の拠点である家畜病性鑑定所に、C S F 等に係る検査機器を整備することで、豚及び野生イノシシの検査体制を区分し、交差汚染を防止することが可能となった。

【家畜病性鑑定所】

リアルタイムPCR 機器 一式

小型卓上恒温槽 一式

アルミブロック恒温槽 一式

2 成果

豚熱及びアフリカ豚熱のまん延防止

・実施後：豚熱及びアフリカ豚熱の発生件数 0件

高病原性鳥インフルエンザのまん延防止

・実施後：高病原性鳥インフルエンザの発生件数 0件

達成度：達成

【都道府県等による評価の概要】

野生イノシシや人流を介した感染地域の拡大や家畜養豚へのまん延を防止するため、水際対策の強化として、松山空港における靴底消毒を実施することで、県内への豚熱及びアフリカ豚熱の侵入を防止する効果があった。

また、病性鑑定における野生イノシシ及び豚の交差汚染を防止するため、野生イノシシと豚の検査機器を分けて整備することで、病性鑑定を適切に実施することが可能となった。

以上の取組を実施した結果、本県において豚熱及びアフリカ豚熱の発生は認められず、本病のまん延防止を達成することができた。

なお、アフリカ豚熱はアジア周辺国において、豚熱は国内で未だに発生が認められることから、引き続き、本県におけるこれら伝染性疾患の侵入を防止するための水際対策を継続するとともに、豚及び野生イノシシの検査を適切に実施していきたい。

高病原性鳥インフルエンザの発生が過去最多となっている中で、野生動物や環境からの家畜の伝染性疾患の感染防止を図るため、野鳥が飛来するため池等の水場周辺を緊急消毒し、更なる養鶏場へのウイルス侵入リスクの低減に取り組むことで、本病のまん延防止ができた。

今後は、発生防止対策として、農場における衛生対策の向上に対する取り組みを強化し、体制を整備することで、家畜衛生の推進を図りたい。

【専門家の意見（愛媛県獣医師会 会長 戒能 豪）】

- ① 新型コロナの行動規制緩和による入国者の急増に鑑み、松山空港での水際対策を強化徹底することが望まれる。
- ② 野生イノシシが豚熱を広範囲に広げていることから、野生イノシシの監視体制を強化徹底することが望まれる。
- ③ HPAI ウイルスの国内常在化も懸念される中、常在するカラス等の野鳥対策を強化し、関係者の高い防疫意識を維持することが望まれる。

第三者の主なコメント

（愛媛県獣医師会 会長 戒能 豪）

空港での水際対策や野鳥が飛来するため池周辺の消毒のほか、検査診断体制の整備強化等を図ったことが、目標達成に繋がったと思われる。

今後も畜産農家と関係者が一丸となって、効果的な衛生対策を推進して頂きたい。

国による評価の概要

管内でCSF・ASFの発生リスクが高まる中、特定家畜伝染病等の遺伝子PCR検査の体制づくりの強化に取り組み、目標は達成されており、特定家畜伝染病に係る事業は適切に実施されたと評価する。

HPAIが隣県の県境で発生したものの、事前の体制整備がなされ、まん延の防止ができたことは評価できる。

今後も、飼養衛生管理基準に基づく継続的な衛生指導の実施により、県内全体の衛生レベルの底上げや維持に取り組まれることを期待する。